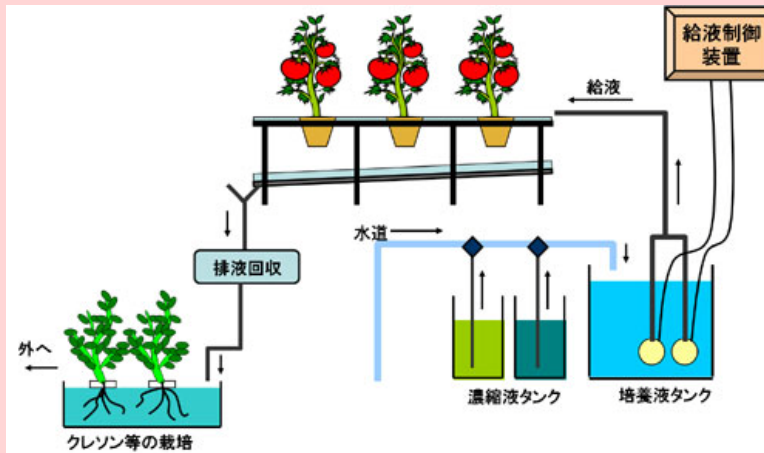


トマトのハウス生産(ポットファーム)における環境制御システムの構築

【JR九州鉄道営業(株)】(熊本県)

システム概要

- 岐阜県農業技術センターで開発された「独立ポット耕養液栽培システム」でポット当たり約1kgの土で水耕栽培を行い、2,400~2,500ポット/10aで良品質のトマトを多量(14~15トン/10a)に収穫できる仕組み(給液制御装置によるかん水の自動化システム)。この農法は大玉での使用実績はあったが、ミニトマトへの利用は本農場が初めて。



導入経緯・背景

- JR九州のCSR活動の一環として九州地域の活性化を目指し、JR九州100%出資会社の農業事業部として本格的に農業参入を始めた。本農場はJR九州グループとして第2弾である。H23年度から開始。現在農地面積は約3ha。

導入者コメント(効果・課題等)

- 農業未経験者でも、一定の収穫量が確保できる。
- ポット栽培なので病気などが発生してもリスクが最小限で抑えられ、毎年接ぎ木苗を購入する必要がない。
- 初期投資コストが高く、新規参入のハードルになる可能性がある。
- ミニトマトでの栽培が初めてであったため、大玉トマトのデータを元に試行錯誤で進めている。
- この農法で収穫できる理論値である14~15トン/10aを実現したい。